

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900087	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲		
所在地	(243-0035) 神奈川県厚木市愛甲1丁目12番20号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年1月4日	評価結果 市町村受理日	平成29年8月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その人らしく、いつまでも』をモットーにしているホームです。入居者家族や地域の方々の深い理解とご協力をいただきながら運営をしております。認知症を理由に施設内だけの閉鎖的な空間での生活を強かず、積極的に地域行事への参加や外出の機会を設けるよう努めています。入居者は職員本位の日課で過ごす事無く、なるべく多くの入居者の思いを組み入れ、力を発揮していただけるよう努力をし、入居者と職員は介護をする人と介護を受ける人と区切らず、共に暮らす家族のような存在となるよう努めています。また職員はホームヘルパー2級以上の資格所持者で、介護福祉士資格所持者も7名在籍しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年1月25日	評価機関 評価決定日	平成29年8月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概況】
この事業所は、小田急線愛甲石田駅から徒歩約7分の住宅地に位置している。2階建ての2ユニットのグループホームである。近辺には、病院や美容室、ケーキやパンの店、カフェ、寿司屋などの店舗が点在している。共用型デイサービスが併設され、その利用者との交流が暮らしの中の程よいアクセントになっている。

【地域連携と地域資源の活用】
自治会に加入し、利用者が祭りや正月行事に参加している。事業所のニチイ祭りには、地域住民が100人ほど訪問した。運営推進会議には、自治会役員、地域福祉推進委員 民生委員 家族代表 ボランティア、駅前交番職員など、多彩な地域の方々への参加があり、地域との連携が促進されている。地域の防災訓練に参加し、その後に運営推進会議を行って、地域の方々との災害時の協力について話し合っ、理解を広げたこともある。

中学校のブラスバンド演奏、尺八演奏、よさこい踊り、写真撮影、傾聴など多様なボランティアが来訪して利用者を楽しませている。調査中に来訪した傾聴ボランティアと利用者が家族どうしのように、明るく華やいだ声で談笑していた。

近隣の公園や店舗などは、利用者の散歩や花見、買い物など日常の外出の目的地となり、地域住民との交流の場にもなっている。隣のコンビニエンスストア店長からは、災害時の協力について申し出があった。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	海

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、毎日の夕方の申し送りの際に唱和を行い、共有し、業務に流され忘れず実践できるよう心掛けている。	事業所のモットー「その人らしく、いつまでも」をサービスの理念としている。朝の申し送りの際に唱和し、認識を深めている。利用者がその人らしく暮らしていけるように、慣れ合いに流れず、敬意を持って接している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域行事とホーム行事への相互参加等日常的な交流をしている。	地区の自治会の祭り、どんど焼きなどに参加している。事業所で開催するニチイ祭りには、地域住民が多数参加し、炊き出しをしてもてなした。近隣の中学校のブラスバンド、傾聴やよさこい踊りなどのボランティアが来訪して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度に続き、ホーム行事の際に介護相談コーナーを設置。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム行事や地域行事の前後に兼ねて実施。防災関連の対応についての協議や訓練参加を相互に行うきっかけとしている。	2か月ごとに開催している。家族代表、自治会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、地域福祉推進委員、訪問看護師、地域の交番職員、ボランティアなどが交互に参加している。地区の防災訓練に参加し、その後運営推進会議を行ったこともある。会議では意見交換が活発に行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営相談や報告などを日常的に行っている。	厚木市健康保険課とは、要介護認定調査手続き代行などの際に、意見交換をしている。厚木介護保険事業所連絡協議会に参加し、事業所同士や市職員と意見交換したり、研修会に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施しているが、その他施錠を含めた身体拘束の実施は全職員共通の認識を持ち行っていない。	身体拘束排除の研修を毎年行っている。新入職員は、入職前の研修などで身体拘束排除が周知・徹底され身についている。車椅子利用者はベッドなどに移乗して身体を休めてもらっている。玄関、ユニット入口は夜間のみ施錠している。不意の外出に備え、職員全員が見守りに気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習があり、最低年に1回の振り返りが行えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に成年後見人制度の案内をし、導入ケースが複数ある。制度についての研修は管理者が前年度に参加をしたのみ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、十分な説明とご理解を得るよう努め、ご理解同意を頂いた上で、契約書の取り交わしを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、年1回のアンケート実施を行っているが、家族会や、面会の際などでもホーム、職員への要望、ご意見を伺うよう努めている。	運営推進会議、家族会、来訪時などの機会に家族の意見を聞くように努めている。毎月の請求時に、施設だよりを配布して情報発信している。年1回行われる、法人のアンケートで出された意見に対応し、「あつぎ街かど大道芸」を見物に出かけた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングのあとに各ユニットに分かれたカンファレンスを行い、全体意見と各ユニットからの意見提案を聞けるように努めている。	職員は、全体会議やユニット会議などで、自由に意見や提案を述べている。職員の提案で、車椅子がテーブルの脚を傷つけるのを防ぐため、フットレストの保護と固定を実行している。管理者は、日常的に職員の相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてもキャリアアップ制度等が整っており、向上心を持ち業務に携われる環境がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修参加は推進はしてはいるものの、職員不足が深刻な状況であり一部職員のみが参加できている現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木介護事業所連絡会への加入をしており、他事業所との交流機会は持っている。見学などの相互訪問もできる良好な関係はあるが今年度は職員の時間的な余裕が確保できず。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を、誠意を持ち伺うよう努めている。職員も特に入居初期においては傾聴を重んじている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期においては特に十分に時間をかけ要望を聞くよう心がけて、より良い関係を築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人と介護される人の関係ではなく、共に暮らし、お互いに支えあいながら生活をする家族的な存在となるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大事な一員として共に考えていけるよう、心掛けている。来訪時には近況報告や面談を行い、ご希望や、ご意見を頂いたり、家族と過ごす時間の尊重をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方には、手紙や電話での通信支援を行っている。家族以外でも馴染みの関係の方の面会がある方もいる。	以前入院していた病院に行き、院内の理容院で散髪したり、売店で買い物をする方や配偶者の月命日に娘と墓参りをして、帰りにうなぎ屋で食事をする方を支援している。知人に年賀状などを書いた場合は、投函の支援をしている。同級生が来訪したり、近所の方が花を持ってきた際には、湯茶で接待している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の見守りをし、孤独にならないよう話題提供、レク実施等を行っているが、一人で過ごす時間を好む方もあり、自室で長時間過ごす方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、交流が続いている家族もあり、ホーム行事などへの来訪もある。相談などがあった場合には適宜応じている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での関心度合いや積極性などからの判断や、言語的な訴えでの聞き取り、過去の生活歴や家族からの情報提供で希望要望を把握するよう努めている。	職員は、日頃から利用者の食べたいもの、行きたいところ、会いたい人など出来るだけ多くの思いや意向を聞き取っている。言葉が出にくい方は、表情の変化や仕草を観察して意向を把握している。把握した情報は、管理日誌に記録して共有し、出来るだけケアプランやケアサービスに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況は、家族やケアマネ等から情報収集をしており、生活歴や嗜好、性格などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状態や意欲、能力を共有しその人らしく無理なく暮らせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行っている。本人の希望要望は日常の会話や生活の中から汲み取るなどの工夫をし、必要に応じ医師や看護師等から助言アドバイスを頂いている。	アセスメントを基にケアプランの長期・短期目標や具体的サービス内容を設定して作成している。プランの内容に沿った具体的な実施記録を付けている。カンファレンスでは職員が意見を出し合っている。プランのモニタリングや評価、見直しは3か月ごと、変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に則った記録の不備などから、前年度から書式の変更実施をした。社内的にも記録業務の効率化を目指しており目下、PC入力への移行期。情報共有を個別記録、全体申し送りなどで行い、見直し時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険がない限りなるべく叶えられる様努力をしている。ご家族からの要望や、状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加やホーム行事への地域住民参加、ボランティア来訪などで心身ともに豊かな暮らしを得られるよう勤めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重し主治医決定をしてもらっており、入居時にはホーム提携医の紹介を行っている 提携医に対しての受診支援は積極的に行っている。	協力医療機関は、総合病院とクリニックがある。月1回の往診は総合病院が行い、クリニックの訪問医は終末期の対応をしている。訪問看護は週1回来訪し、健康管理などを行っている。オンコール24時間対応である。歯科医の往診は週1回で、治療や口腔ケアを行っている。整形外科に通院している人がいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、提携医療機関看護師とは情報の共有、相談等を日常的に行っており、24時間体制で連絡が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院加療が必要な場合も早期退院を要望し理解協力を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対しての指針の説明と同意を頂いており、入居時段階での家族の思い、考え方を聞き取る努力をしている。事業所としては重度化における対応に関わる指針をスタッフで周知しており、退去者があった後のミーティング等で理解を深めるよう動機付けている。	往診医と連携体制をとり、「重度化した場合の指針」を契約時に説明している。職員は、重度化の指針の内容を周知している。利用者が終末期を迎えた際は、本人・家族の意向に沿って医師を交えて話し合い、家族の協力を得てチームケアによる看取りを実施した。	今後は、利用者の重度化がさらに進む可能性があります。ターミナルケアにおける心構え、基本的注意事項などについて、研修を実施することを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年度ごとに普通救命講習の再受講を実施しており、今年度も3月までに実施予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難、指定避難場所までの経路を全職員把握している。自治会の防災訓練参加も行き、災害時の協力について自治会の理解も得られている。	防災訓練は年2回、地震や火災発生、夜間想定訓練を実施している。5月には地域の防災訓練に参加した。指定の避難場所に花見に行き場所の確認をしている。緊急時に10分以内に職員3名が駆け付けられる。災害備蓄は3日分以上保有し、利用者ごとの非常持ち出し防災バッグを備えている。	大震災に備え、共用型通所介護利用者の送迎中の災害対策を立て、想定訓練を行うことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの慣れ親しんだ話し方、呼び方に合わせているが、馴れ合いになったり、言葉使いが荒くなったり、自尊心を傷つける可能性があることも含め十分な配慮を要する。	職員は、接遇、個人情報保護などの研修を受け、利用者に対して親しみと尊敬の念を持って接している。馴れ馴れしすぎる言動をとらないよう注意をしている。リビングにある書類の利用者名はイニシャルで記入し、棚に収納している。個人情報に係る書類は、鍵のかかった書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の好みや飲食物、過ごし方など、希望を聞くようにしており、希望を出せない場合には選択肢を少なくし自己決定の場面を意識的に提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った1日を自身のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の活用支援、外出やイベント時のおしゃれを楽しむ支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	参加意欲や能力に応じたお手伝いをお願いし、共に食事作りや片付けを行っている。	ユニットごとに献立を決め、食材を購入して職員が調理している。利用者は、エプロン、三角巾をして、調理補助や皿洗いなど出来ることを手伝っている。利用者の状況に合わせ、トロミやミキサー食、高カロリー食を提供している。敬老の日には豪華な仕出し弁当を提供する。外食は外出行事と併せて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態、習慣、好みに合わせた形での食事提供をし、食事と水分摂取量は記録をし、1日の必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量、習慣に合わせ個別に支援をし、訪問歯科での義歯調整や口腔内チェックも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のタイミングや表情、行動を見て誘導をし、パッドやリハパンの利用減に努めている。排泄支援時は、失禁があっても1度はトイレに着座をし、残尿など無いようスッキリとして頂き、トイレでの排泄習慣が取り戻せるよう支援を行っている。	排泄チェック表を備えて、個々の生活のリズムに合わせて声かけや誘導することが多い。トイレは職員が清掃し、清潔である。きめ細かい誘導によりトイレで自力排泄できるように努めている。夜間は個別の状況に合わせ、大きめのパットを使用して睡眠を優先にする場合や、定時介助する場合がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、十分な水分摂取の促しと、量の記録を行い、適度な運動を日常生活に取り入れている。便秘傾向の強い方には医師と相談の上、下剤使用者もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご入居者の入浴習慣や体調、身体能力に合わせ臨機応変な入浴の支援を行っているが、重介助の方の入浴支援は週に2回の入浴ができるよう計画的に実施をしている。	入浴は週2回で、1日の人数は3～5人である。希望により回数は変更できる。浴槽の湯は、個別に交換し衛生に配慮している。空調設備でヒートショック対策をしている。柚子湯などで季節を楽しんでもらっている。入浴チェック表を備え、入浴に関する情報を共有している。利用者名はイニシャル表記とし個人情報に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労度合いや、夜間の睡眠状態に応じて午睡の促しをする事もある。自室に限らずソファや和室等、くつろげる場所で過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については全職員が把握できるようファイルに綴じ管理をし、服薬時は二重チェックを実施。処方の変更や追加があった場合、管理日誌への記載もし職員間で共有漏れ無きよう留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を持った生活をしてもらえるよう働きかけ、ホーム全体、ユニットごと、個別等、年間を通じ楽しみごとのある生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物は日常的に実施し、季節ごとの外出や地域行事参加を実施し、家族との外出などは自由に行っていただいている。	天候が良ければ、車椅子の人と一緒に日常的に近隣の公園を中心に散歩に行っている。出来るだけ外に出て地域資源を活用し、地域の方と交流している。利用者の体調などにより、1階のベランダで日光浴や外気浴をする場合もある。初詣、花見、平塚の七夕飾り見物などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事故、トラブル回避の為、基本的には入居者の金銭所持はないが、本人希望が強く、家族の理解と協力がある場合には小額所持をしている方もいる。事業所として預かっているこづかい金もある為、買いたい物がある場合には支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方とはなるが、手紙を書くことの支援、電話をかけることの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等の明示を行っている。今日の月日がわかるカレンダーをリビングに作り、生活感、季節感が過度にならないよう装飾等を行っている。	リビングは、窓が広く明るい。バリアフリー構造で床は清掃が行き届き、年2回全館のワックスがけをしている。テーブルがゆったりと配置され、利用者がのんびりと思いきいのことをして過ごせるようになっている。廊下には、利用者と一緒に作った貼り絵を飾っているが、飾りつけが過度にならないように気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるソファセット、ウッドデッキ、和室がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具やベッド、大切にしている思い出の品などを入居時に持参いただいている。又趣味のものや、家族の思い出の品なども、お持ち込み頂き安心して過ごせるようにしている。	空調設備・照明器具・収納設備・カーテン・ベッド、スライド式ハンガーが備えられている。以前からの習慣で床に布団を敷いて寝ている人がいる。布団の片づけや清掃は、職員が行っている。各居室には、それぞれ使い慣れた家具、家族の手紙や写真、お気に入りの歌手のポスターなどが貼られ個性的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普通に生活するというスタンスの中で、出来る事には安全にトライできるよう見守っている。過剰な介護を控え、見守る事を大切にしている。		

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	山

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、毎日の夕方の申し送りの際に唱和を行い、共有し、業務に流され忘れず実践できるよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域行事とホーム行事への相互参加等日常的な交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度に続き、ホーム行事の際に介護相談コーナーを設置。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム行事や地域行事の前後に兼ねて実施 防災関連の対応についての協議や訓練参加を相互に行うきっかけとしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営相談や報告などを日常的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施しているが、その他施錠を含めた身体拘束の実施は全職員共通の認識を持ち行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習があり、最低年に1回の振り返りが行えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に成年後見人制度の案内をし、導入ケースが複数ある。また現在1件、導入検討中のケースがある。制度についての研修は管理者が前年度に参加をしたのみ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、十分な説明とご理解を得るよう努め、ご理解同意を頂いた上で、契約所の取り交わしを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、年1回のアンケート実施を行っているが、家族会や、面会の際などでもホーム、職員への要望、ご意見を伺うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングのあとに各ユニットに分かれたカンファレンスを行い、全体意見と各ユニットからの意見提案を聞けるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてもキャリアアップ制度等が整っており、向上心を持ち業務に携われる環境がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修参加は推進はしてはいるものの、職員不足が深刻な状況であり一部職員のみが参加できている現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木介護事業所連絡会への加入をしており、他事業所との交流機会は持っている。見学などの相互訪問もできる良好な関係はあるが今年度は職員の時間的な余裕が確保できず。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を、誠意を持ち伺うよう努めている。職員も特に入居初期においては傾聴を重んじている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期においては特に十分に時間をかけ要望を聞くよう心がけて、より良い関係を築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人と介護される人の関係ではなく、共に暮らし、お互いに支えあいながら生活をする家族的な存在となるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大事な一員として共に考えていけるよう、心掛けている。来訪時には近況報告や面談を行い、ご希望や、ご意見を頂いたり、家族と過ごす時間の尊重をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方には、手紙や電話での通信支援を行っている。家族以外でも馴染みの関係の方の面会があったり、共に外出されている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニティを把握するよう努め、入居者同士もお互い様と思える雰囲気を作り、相互の関係を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、交流が続いている家族もあり、ホーム行事などへの来訪もある。相談などがあった場合には適宜応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自ら希望等が話せる方には、そのためにどうしたらいいか等の案を出し、言語でうまく表現できない方の場合、本人本位に検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況は、家族やケアマネ等から情報収集をしており、生活歴や嗜好、性格などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状態や意欲、能力を共有しその人らしく無理なく暮らせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行っている。本人希望要望は日常の会話や生活の中から汲み取るなどの工夫をし、必要に応じ医師や看護師等の助言アドバイスを頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に則った記録の不備などから、前年度から書式の変更実施をした。社内的にも記録業務の効率化を目指しており目下、PC入力への移行期。情報共有を個別記録、全体申し送りなどで行い、見直し時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険がない限りなるべく叶えられる様努力をしている。ご家族からの要望や、状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加やホーム行事への地域住民参加、ボランティア来訪などで心身ともに豊かな暮らしを得られるよう勤めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重し主治医決定をしてもらっており、入居時にはホーム提携医の紹介を行っている 提携医に対しての受診支援は積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、提携医療機関看護師とは情報の共有、相談等を日常的に行っており、24時間体制で連絡が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院加療が必要な場合も早期退院を要望し理解協力を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対しての指針の説明と同意を頂いており、入居段階での家族の思い、考え方を聞き取る努力をしている。事業所としては重度化における対応に関わる指針をスタッフで周知しており、退去者があった後のミーティング等で理解を深めるよう動機付けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年度ごとに普通救命講習の再受講を実施しており、今年度も3月までに実施予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難、指定避難場所までの経路を全職員把握している。自治会の防災訓練参加も行い、災害時の協力について自治会の理解も得られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者との家族的な関係構築にあたり、砕けすぎた接し方が起きている部分があり、改善を要する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類選択や家事参加、外出時の準備や理美容の際、なるべく本人に希望を伝えていただいております。希望要望の少ない方は本人本意の視点で良いと思われる事を決定していくようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った1日を自身のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に則り理美容の支援を行い、外出やイベント時は、女性はメイクをしたりマニキュアなどで普段以上に身だしなみを整えるという事でその人らしく、女性らしい楽しみを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に入居者と共に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態、習慣、好みに合わせた形での食事提供をし、食事と水分摂取量は記録をし、1日の必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量、習慣に合わせ個別に支援をし 訪問歯科での義歯の作成や、補修、調整また口腔内チェックも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方も複数いるが、排泄パターンや習慣を把握し、パットやパンツの利用者は常に不快が無い状態でいられるよう支援を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、十分な水分摂取の促しと、量の記録を行っている。日常的に適度な運動、散歩を生活に取り入れている。各種予防策を試しても便秘が解消されない方は下剤服用を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご入居者の入浴習慣や体調、身体能力に合わせ臨機応変な入浴の支援を行っているが、重介助の方の入浴支援は週に2回以上の入浴ができるよう計画的に実施をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労度合いや、夜間の睡眠状態に応じて午睡の促しをする事もある。自室に限らずソファや和室等、くつろげる場所で過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については全職員が把握できるようファイルに綴じ管理をし、服薬時は二重チェックを実施。処方の変更や追加があった場合、管理日誌への記載もし職員間で共有漏れ無きよう留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を持った生活をしてもらえるよう働きかけ、ホーム全体、ユニットごと、個別等、年間を通じ楽しみごとのある生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物は日常的に実施しており、活動的な方も多く、1日に複数回の外出支援もある。季節ごとには旅行等も実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事故、トラブル回避の為、基本的には入居者の金銭所持はないが、本人希望が強く、家族の理解と協力がある場合には小額所持をしている方もいる。事業所として預かっているこづかい金もある為、買いたい物がある場合には支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方とはなるが、手紙を書くことの支援、電話をかけることの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等の明示を行っている。今日の月日がわかるカレンダーをリビングに作り、生活感、季節感が過度にならないよう装飾等を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるソファセット、和室がある。利用者同士でくつろぐ場合には相互の居室訪問も多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具やベッド、大切にしている思い出の品などを入居時に持参いただいている。又趣味のものや、家族の思い出の品なども、お持ち込み頂き安心して過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普通に生活するというスタンスの中で、出来る事には安全にトライできるよう見守っている。過剰な介護を控え、見守る事を大切にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニキケセウ-厚木愛甲

作成日 29-8-14

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	共用型通所介護送迎中の災害を想定した訓練を実施する。	送迎中に災害が発生しても迅速に対処できる。	災害発生時の行番 ・第一連絡先の確認 ・送迎ルートごとの避難場所の確認	H29年 ～H30年 3月末日迄 に実施
2	12	ターミナルケアについて心構え等の研修を実施する	全職員がターミナルケアについて一定の知識も持っている。	重症化した場合における対応に係る指針の資料を元に研修を実施	H29年. ～H30年 3月末日迄 に実施
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。